



～季節の花便り～

海浜部で白く輝くように咲く日本原産のキク

“ひたちなか市の花” **ハマギク** **開花中**です！



平成 20 年 10 月 27 日撮影

謹啓 晩秋の候 皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

ひたち海浜公園では、地元“ひたちなか市の花”のハマギクが開花中ですのでご案内いたします。

ハマギクは茨城県から青森県の太平洋側に分布し、海岸の崖などに自生する日本原産のキクです。本公園では、砂丘エリアの晩秋を彩る海浜部特有の植物として、その風景に溶け込むように植えています。太平洋を望む砂丘エリアで太陽の光を浴びて白く輝くように咲くハマギクは、庭先とは異なり、青い空と紺碧の海との色の対比がとても美しく、際立つ存在感を醸しています。

なお、ハマギクは11月上旬までお楽しみいただけます。

つきましては、皆様には御多忙中のことと存じますが、取材並びに記事掲載の程よろしく願い申し上げます。

謹白

お問い合わせ先

〒312-0012 茨城県ひたちなか市馬渡字大沼605-4
ひたち公園管理センター企画課 穂積・田中・森下
電話(029)265-9005 FAX(029)265-9339
お客様問い合わせ電話番号(029)265-9001

ホームページ <http://www.ktr.mlit.go.jp/kaihin>

開花：

10月上旬から11月上旬

ハマギク

キク科キク属多年草

原産地：日本

【ハマギク豆知識】

ハマギクは本州の茨城県以北の太平洋側に分布し、海岸の崖などに自生する日本原産のキク科の植物です。葉は肉厚で光沢があり、7cm前後の大きな白い花を咲かせます。

キク科の植物は世界に広く分布し、約920属、およそ20,000種が知られています。日本にはおよそ350種が野生し、日本原産のキクは地域ごとに固有種として分化しており、中でも海にちなむ「ハマ」を冠したハマギクは香りがあり、イソギクと並んで美しく観賞価値が高いことが特徴です。

【ひたち海浜公園のハマギク】

本公園では、砂丘エリアの晩秋を彩る海浜部特有の植物として、砂丘エリアの風景に溶け込むように植えています。

自生地である崖の風情を思わせる砂礫の小丘で咲く花は、際立つ存在感を醸しています。

本公園のある「ひたちなか市」の花はこのハマギクで、ひたちなか市付近がハマギクの自生地の南限となっています。本公園では、ハマギクが地元“ひたちなか市の花”として縁深い花であることから導入しました。砂丘エリアの「海浜テラス」や「香りの谷」、西口エリアの「ワイルドバルブガーデン」のほか、園内各所に植栽しています。



平成20年10月27日撮影

10月27日現在の状況

現在、砂丘エリアの「海浜テラス」や「香りの谷」周辺にて、清らかで真っ白な花を咲かせており、11月上旬頃までお楽しみいただけます。

～トピックス～

“恋の花占い”のあの花って…！？

「スキ、キライ、スキ、キライ…」誰でも1度くらい意中の相手を想像し、花占いをした経験があると思います。この占いに使った花は“シャスターデージー”であると言われており、アメリカの育種家ルーサー・パーバンク氏が、“フランスギク”と日本生まれの“ハマギク”を交配して作り出しました。

ハマギクの花びらは“恋心”を連想させるかのように純白です。砂地や海岸の崖などで花を咲かせるハマギクの花言葉は「逆境に立ち向かう」。恋をしている人には、勇気を与えてくれそうなたくましくもある花です。

ハマギクに続く… 晩秋の海浜部に咲く花 「イソギク」

開花

10月下旬～12月上旬

太陽の光を浴びて、
黄金色に輝く花を咲

かせ、葉の表面が濃い緑色、裏面が銀白色というコントラストが美しい植物です。ハマギクに続き、現在日当たりの良いところから徐所に咲き始めています。



イソギクの開花状況については、
追ってご案内いたします。